

第2回軽石の埋立処分に関する技術検討委員会

議事要旨

(試験結果の評価について)

- ・現地盛土試験で得られたコーン指数は、拘束効果の少ない周囲の結果よりも現場の条件に近い拘束効果が認められる中央部の結果を重視した方が良い。

(軽石埋立処分手順案について)

- ・今回は中城湾港泡瀬地区での埋立処分を想定して検討したものあり、他の場所で埋立処分を行う際には別途現場の状況等に応じた検討が必要となることを明記したほうがよい。
- ・軽石単体では支持力や沈下の観点から埋立処分に適さないが、浚渫土等と混合することによって性状の改善が期待されることから、混合土として処分することとなった経緯を明記したほうがよい。
- ・購入砂は海砂（黒砂）であることを明記したほうがよい。
- ・利用箇所の検討に関して、適切に施工がなされれば供用後に地下水位が上昇しても軽石の分離が生じる恐れは少ないと考えられる。
- ・施工手順に関して、現場の状況を詳述する必要はなく水中への直接投入を避けることのみを記載すればよい。
- ・施工時の層厚30cmは転圧前なのか転圧後なのか明確に記載したほうがよい。
- ・粘性土に改良材を用いる場合の周辺地盤への追随性に関する留意点に関して、不同沈下等に対する追随性であること、改良材を必要以上に入れすぎない方がよいこと、大規模に施工する際には改良土の比重が1より大きくなるようにした方がよいこと等を明記したほうがよい。

(更なる検討に向けた追加試験について)

- ・道路盛土への利用を検討する場合には締固め試験が必要となる。その際、代表的な混合土について実施すれば良いこと、明確なピークが認められない場合には凡その最大密度が得られればよいこと、重機による締固めを想定した通常よりも大きなエネルギーによる試験も実施した方がよいこと等の点に留意すること。
- ・粘性土の液性限界、粒子の破碎状況（写真撮影等）、混合した際の重量比等を調べることで軽石の特性をより理解することができると考えられる。